へ 13
3793
3

梅仙哲

緑亭川柳作

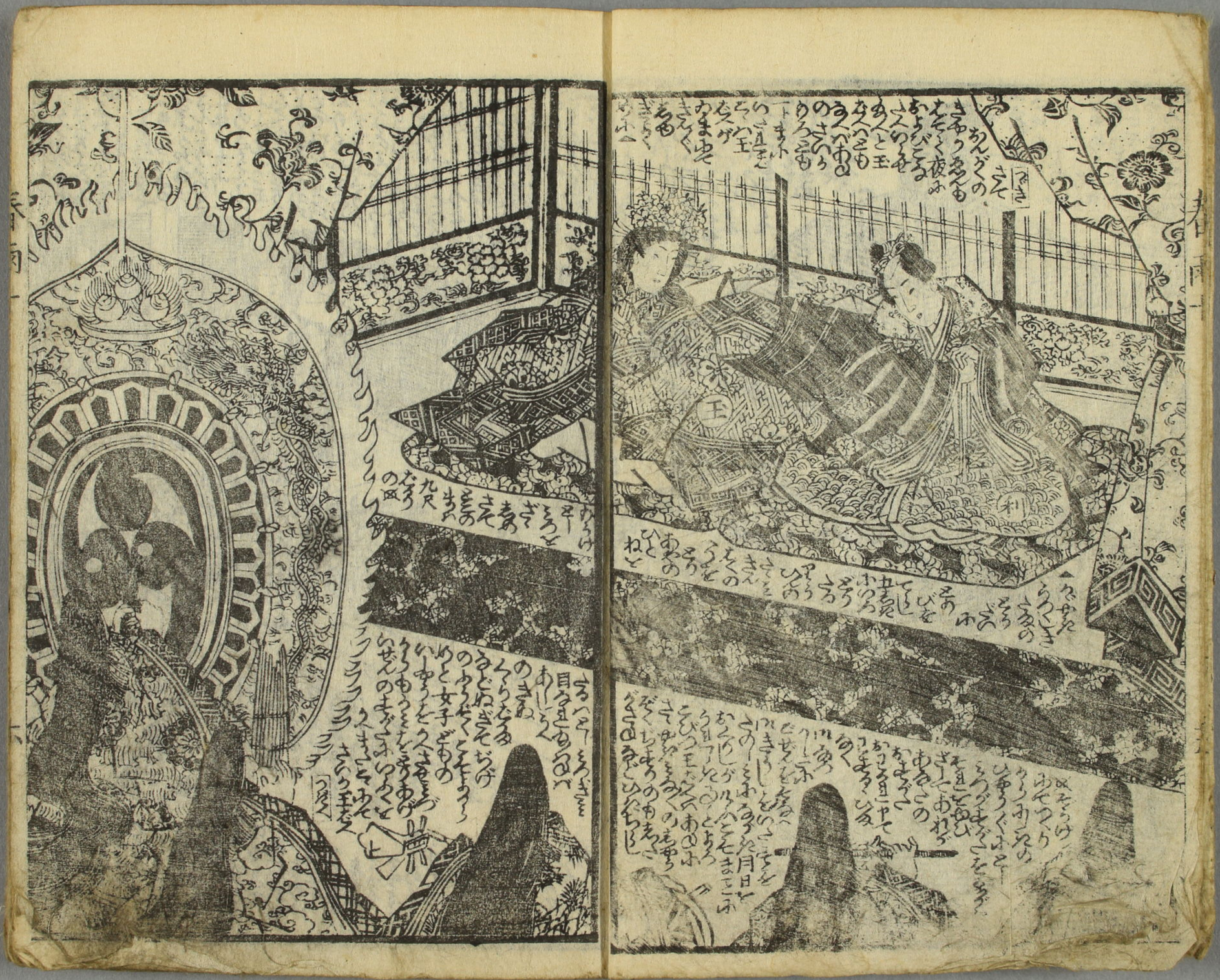
十編上

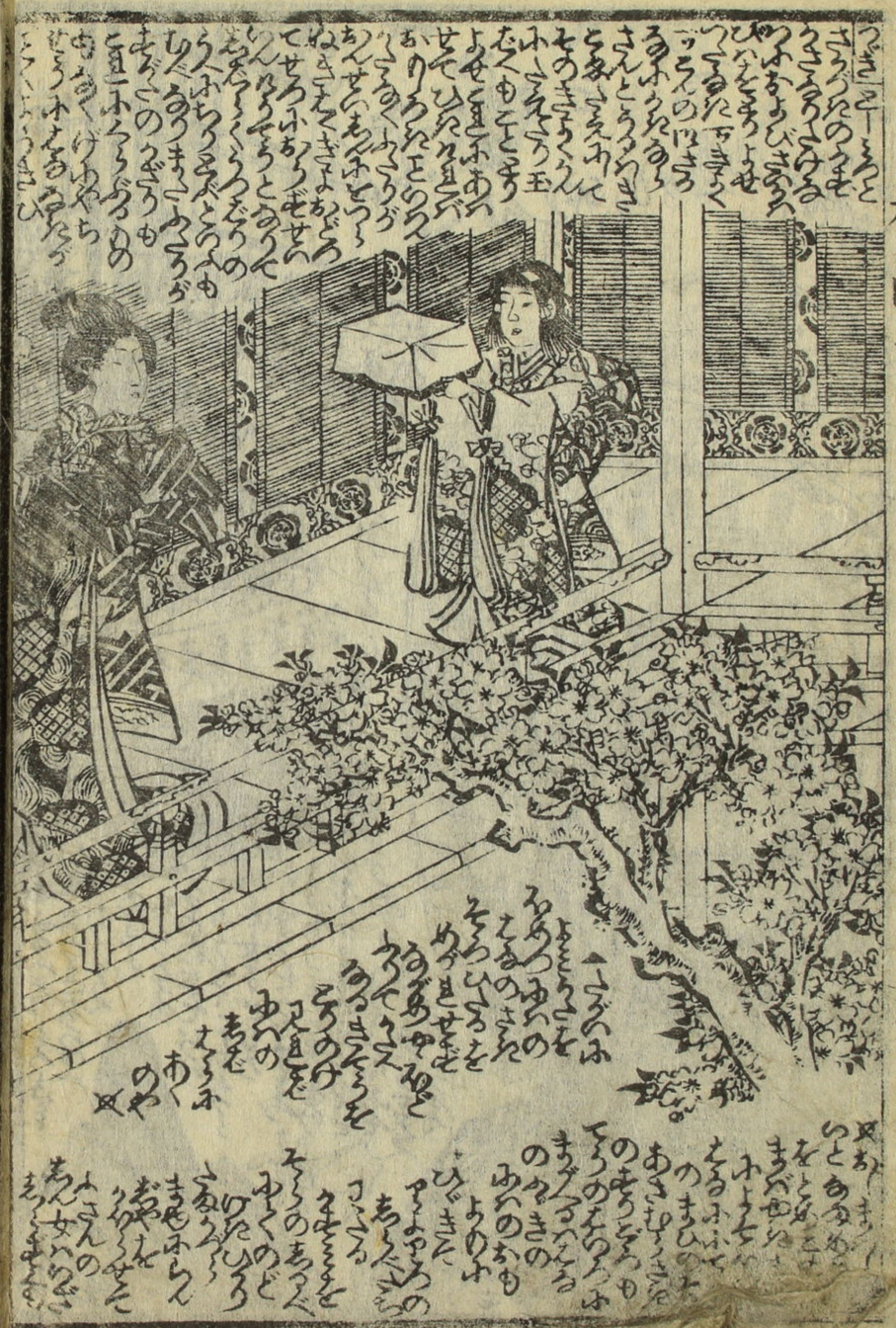
京新板

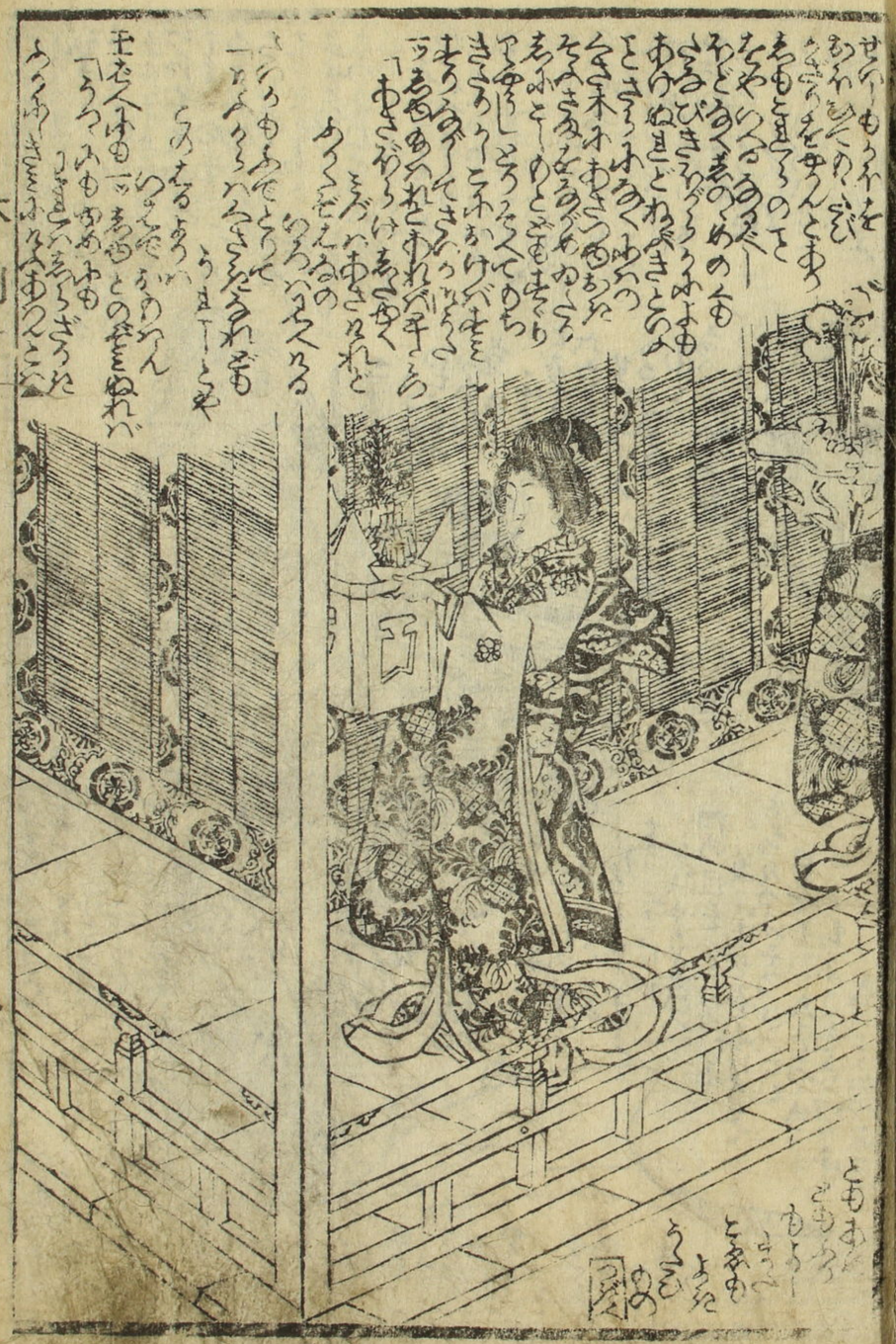
門 へ13
號 3793
卷 3

龍宮に波計下に有るも。浮る説に思ひ。仙境に山深に有とも雲を掴に
似たり。遊仙窟とゝ書に張文成が道に迷ひ仙屋に入て琴碁書畫詩
樂を極め又小弓を射て戯るゝ今是を譬ば。楊弓場の娘と的に覗寄矢行
に張詰て弓と矢は遠廻りに仕掛て落ゝと手管の如く。依然る人情ゝ
博士伊時朝臣。神翁の口授少て讀び遊戯して見るべき物にもあらず。文章九憲の
及ばね物史慎て稗史の種とし。要に仙家の段に至れば仙女の貌を如何に世に欄間の
天人祭の音姿何に似せても唐人嗅ゝと我國雲井の姿に寫ゝ遊宴のさま或
見まれば方士が草鞋を切ゝて尋ね桃源に再び棹さすとも見ることなく仙界の民
夫に聊教を今人義理に虚實を調合ゝて丹を煉ると譯文まれば仙の壽算
に自似ても。其筋のみと長きに著作の才は短き故ぞ

嘉永四辛亥歳孟春新鐫　緑亭川柳記







王
さ
利

文久二壬戌年新鐫藏版目録

遊仙沓春雨艸紙　十九編　緑亭川柳作
二十編　一壽齋國貞画

田舍織糸線狹衣　五編　仝作
六編　同画

父漢土　母和朝　國姓爺一代記　中本三編　初編ヨリ　讀切　假名垣魯文編
歌川芳直画

月宴更科譚　二編
三編　松園梅彦作
一勇齋國芳画

天神一代記圖會　中本一冊　柳下亭種員著
一勇齋國芳画

容色仙代萩　三編ニテ　讀切　一筆菴英壽作
一雄齋國燿画

東都書房　馬喰町貳丁目　錦耕堂藏板

一陽齋豐國画

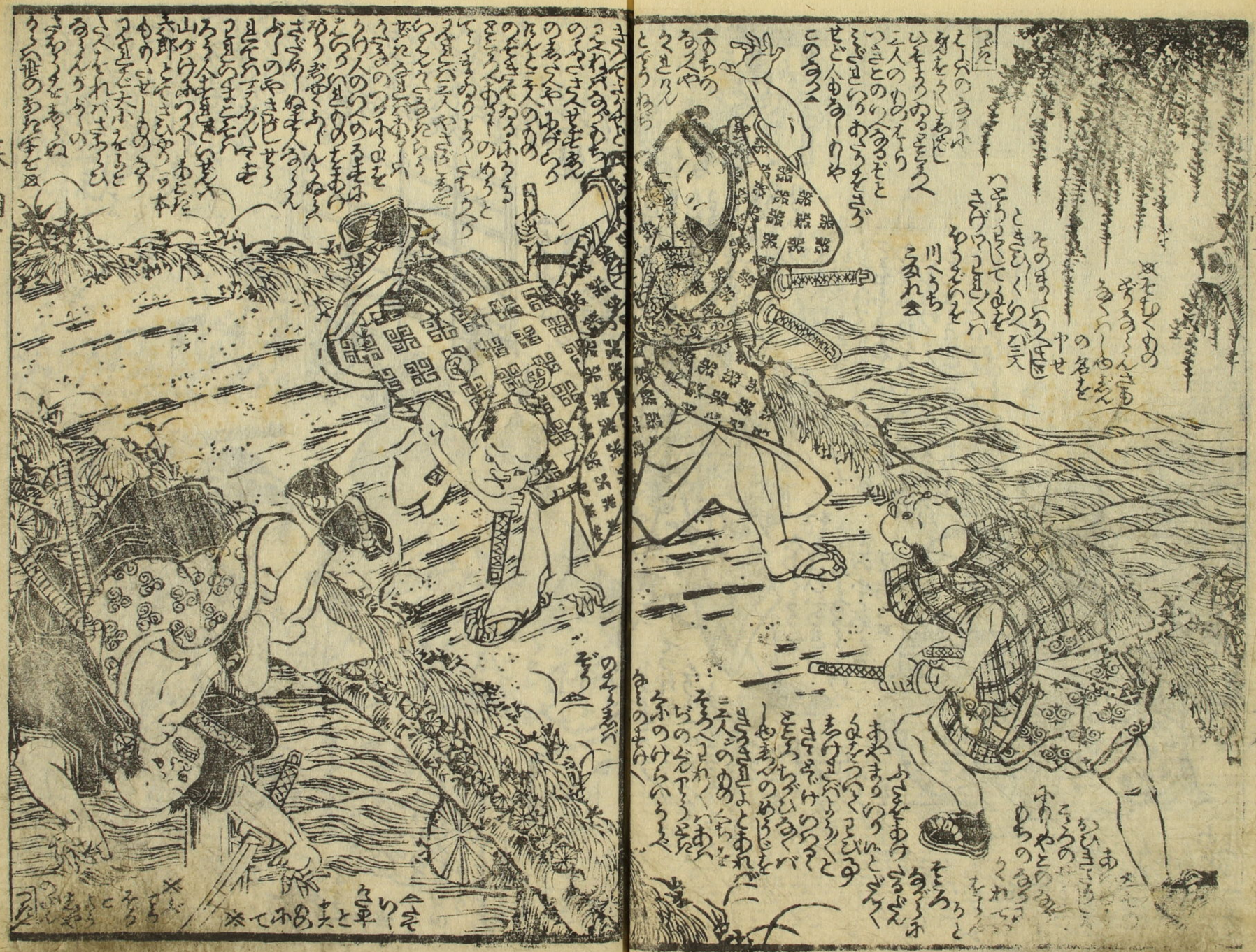
梅仙出世両替

孫亭著述
一陽齋豆国
十編下

江戸通り
鶴翁堂

山講中
旅宿
中

奉納
兵



阿
笹
寛
兵

豊國画　川柳作

藏版新刊珍奇雑書略目録

陸東太郎後世譚　九編　西馬作
十編　貞秀画

水滸像侠銘鑑　三編　西馬作
四編　國輝画

岸柳四魔談　四編　同作
五編　國輝画

伊賀越仇討　樂亭西馬作
一鶯齋國周画

懲惡勸善乘合噺　七編　柳下亭種員作
八編　一壽齋國貞画

詞花萱草紙　初編　墨川亭雪麿作
二編　一雄齋國輝画

初昔見聞沙看紙　二編　有人作
三編　芳盛画

八犬傳　七編　春水作
八編　國芳画

今様八犬傳　二編　泉成作
三編　國明画

松園白妙譚

書物樂　東都馬喰町二丁目西側
繪草紙問屋　山口屋藤兵衛

錦耕堂梓
十一篇上

擬傳皆春雨草紙

川柳述作

芝玉亞
壬子彩板
十二編上

夫草双紙の序ハ春の始の喰積に似て見はきとよく。御最の物と
並べ目出度そなゝる理屈ハ歯ごゝ噛あ免て旨味の有にあらず。
作者の心ハ福引の如く。當る或何でも楽ハ考く。下るもの追羽子高く
ほ上ってくるゝ毬はくほとそづんでも。及ばぬ趣向と壁言て言バ。新世帯れ
七種ゆゑ。讀も画組も。道具ゞ足ぬ不拍子物ゆゑ扣附。歯固の鏡餅割て
砕ゞ細く行ぜ。切放るゝ削掛。粥杖迄る女子ほゞ身ゞのまひをあて尻の
用心。稿ハ綱引力いっぱい。左義長の陽氣と請。ぞんゞ摺ぜ支と願
ひ。恵比寿祭の鯛ゆゞに尾鰭と附て評判よくゝる或打てとち萬両乃。
賣買もあれゝと。書肆の慾ゆハ思ふあるべし。

嘉永五年壬子春

緑亭川柳誌

わの
せと
城
ゑの色
ぞ
今
いとはつこそ
ゑりひとゆん
恋ゝ玉ゝ貝

南無阿弥陀佛
阿
目

兵
世

時

浮世仙台春雨艸紙　十二編　緑亭川柳作　一陽齋豐國画

田舎錦糸線挾衣　四編　五編　仝作　同画

天録太平記　初ノ巻　追々出板　仝作　一勇齋國芳画

奇持百歌仙　同断　仝案　一立齋廣重画

贈答百人一首　仝案　諸画家郡筆

狂句五百題　全二冊　五代目川柳著

東都書房　馬喰町二丁目　錦耕堂藏板

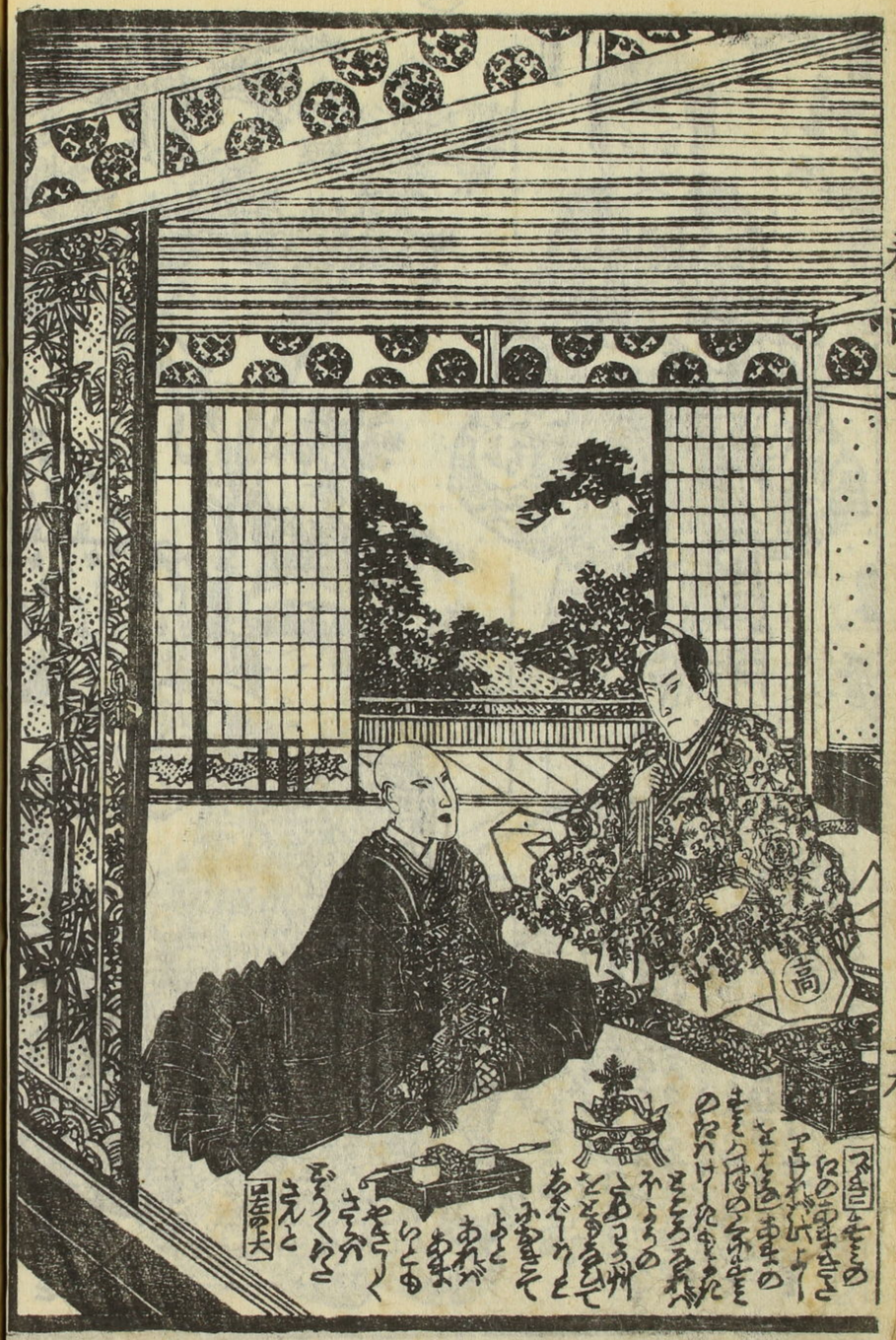
一陽齋豊國画

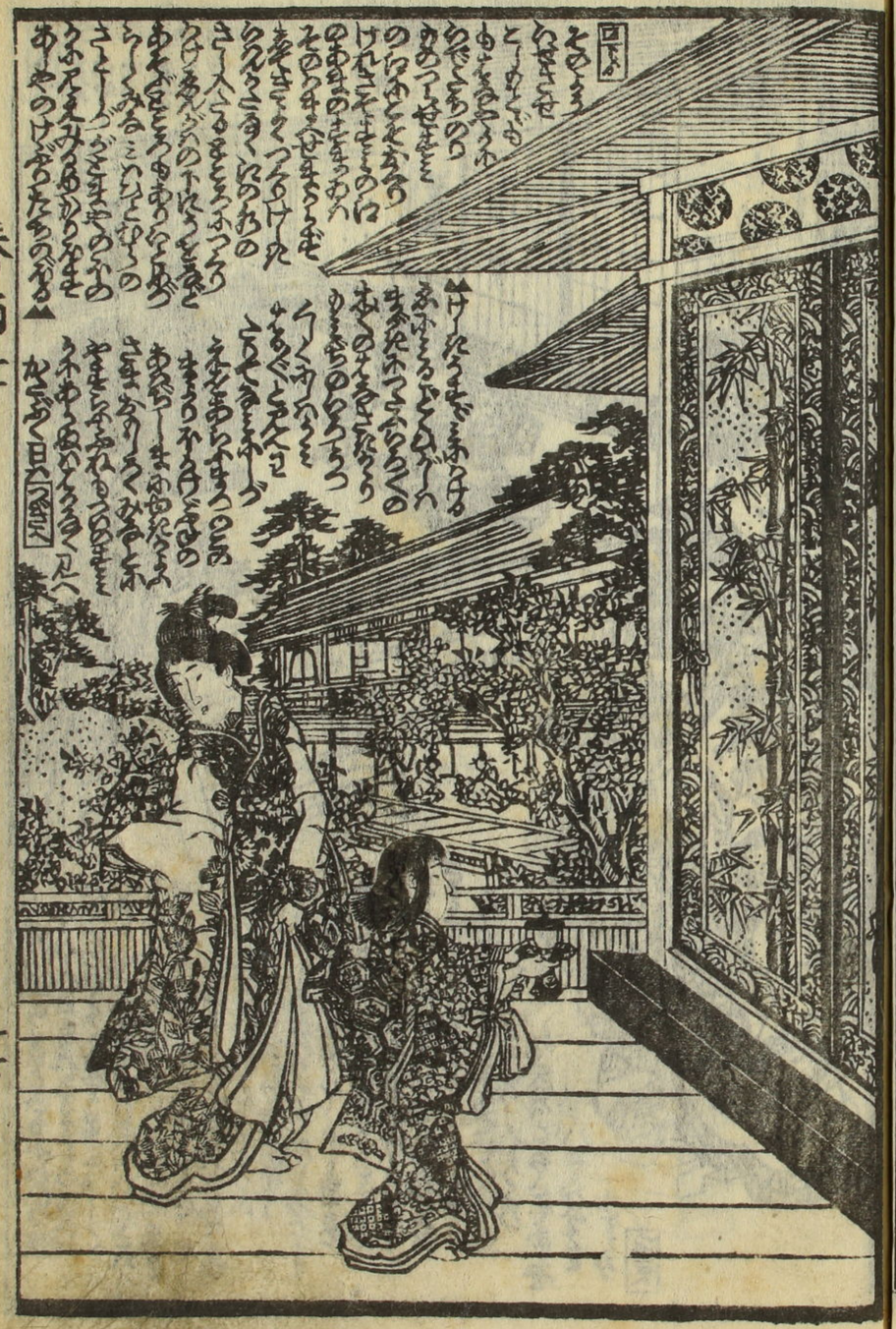
子之春
新板

十一編下

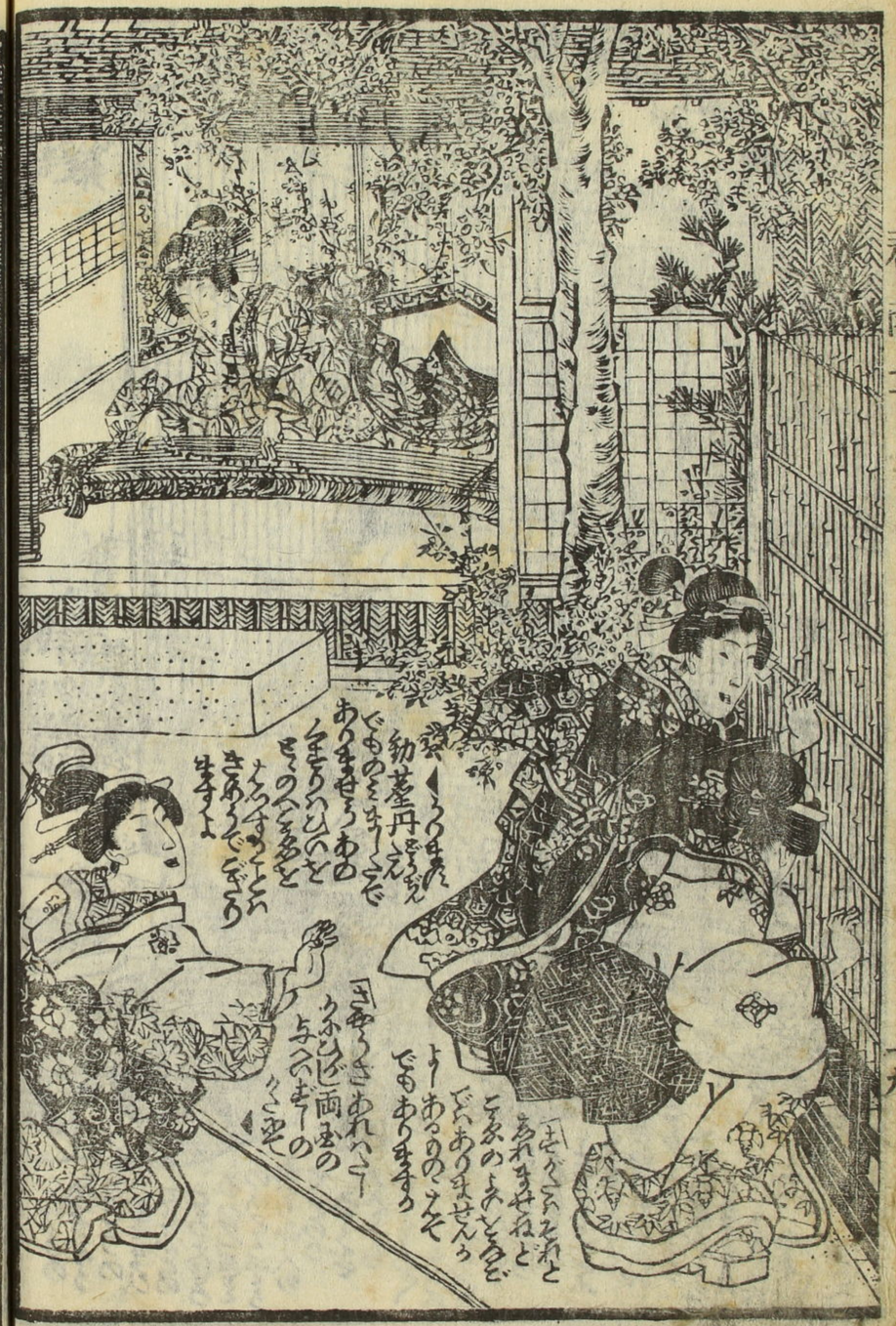
千
八

御泊宿


高



若


ゆるくこれをれと
あれまそれねと
とゑのようなとを
どゝありませんう
ようあっのこそ
でもありますう
さあくさあれいさ
ゑゝびゝ両主の
ようへまそ
くこそ
ゆるくこれをれと
あれまそれねと
とゑのようなとを
どゝありませんう
ようあっのこそ
でもありますう
幼菫丹ぐんぐん
ぐものくまきーくそ
あるまきうあの
ようりひのを
ものくまを
くうすくとん
さあくぐぐうり
ますよ

つゞき
ゆるま
せぬゆく
しきさろ
このはめど
お目ぐりりを
いっさんとゆるぐくたろそ
まありまうくとあゝせあげ
られくぐさりませとれゞべ
かとりいとゝをとりくせ
さてくけのゑの老ぶとの
女めたちさらぎハ目ふ
あのゝせんと六尺ゆうりて
うちまゑゑまべりやくこれて
ゑぬろとものちゆかけくねゞびま
まるゆさてのれくぐさりませとゆふをの
ゆくぐまゑりくとゆまくさりあげゞ

阪東大郎後世譚 八編 西馬作 九編 貞秀画

岸柳四麈談 三編同作 四編國輝画

勸善懲惡 乘合噺 七編 八編 柳下亭種員作 一陽齋豊國画

江戸鹿子紫草紙 二編 三編 文亭梅彦作 香蝶樓豊国画

今様八犬傳 六編 七編 八編 春水作 國芳画

政談國盡 初編 二編 川柳作 國輝画

似像水滸傳銘鑑 三輯 四輯 五輯 樂亭西馬補案 鈗持樓國輝画圖

象頭山麦宮日記 中本 樂亭語 一冊 國輝画

東都馬喰町二丁目西側 書物地本問屋 山口屋藤兵衛 繪草紙

緑亭川柳作

十二編上

仲通曲亭蔵版

花仙岩春の孔雀

緑亭川柳作豊國画

癸丑新板十二編上

錦耕堂梓

春日野の蟻と蜡ハ互に我名の謂を尋。雪山の鳥ハ夜明造栖と啼て有情非情とも更に思ひ入るきことわゝ唐國の精衛ハ入水まで其魂魄千歳と化大海ハ我敵なり埋て怨を報んと砂を含て海ハ落。汐干る時ハ埋潟ーと悦び潮満とゝハ埋られとこ峰樂む。世の業是ハ譬ゝの多く中にも戯作なる者此類ひ多。さぞ多くの人ハ功あるを悔ゝ聊数ならぬ身とりかゝ喜び小者の微に心ゝ。大鵬の大志を奉ぶ羽を伸氣もなと可笑ーく將ハ一帖ゝ。ちよ行ゝ雲井の鶴ハ天乗を及ぶ。ハ隅静けき。大御代の有がたき百千鳥囀る春ゝ。稲屋の秋田苅ハ比まぞも吻子こゝぐ目ぞ世。徒然慰む調度と形ゝ。今十二の帙を嗣斯る稗史も童蒙の求にあハ多帝東都の名物故ゝ。

嘉永六年癸丑春

緑亭川柳記

わすれぐさ
猪のあしんかぎろえ

そらうそ
ふしぎくやなるまゆ
豊国画

右

つるぎ
◆ゆう女町中
◆あさまの
のこしてゐる
ありうえ

右
十四

吉
古

藏版新刊珍奇雜書略目録

遊仙省春雨帖紙　十編　十二編　緑亭川柳作　一陽齋豐國画

田舍織糸線挾衣　四編　五編　仝作　同画

天錄太平記　初ヨリ追々嵌　仝作　一勇齋國芳画

奇持百歌仙　同断　仝　一立齋廣重画　案

贈答百人一首　仝　諸画家　那筆

狂句五百題　全二冊　五代目川柳著

東都書房　馬喰町二丁目　錦耕堂藏板

一壽齋國貞画

遊仙背表而

十二編下

稼耕堂梓

村
結
木

春風十二
十一
十二

つぎは三日のたまゝ
ねらつてようせる
もゝり山ぢち
ゑれ神とゆくん
はそはまことと
ゆるでも
ゆるやうけるさーもゆたけ
ゆめ〻ふもゆとうとうさん
やうもうさまうふれて
そのみさふたえるゆめも
ゆめくしてまりぢて
ゑもゆうゆゆゆく
ことゆうゆゆゆよゆ
ゆまゆ人ゆもゆたゆ
ゆくゆゆゆもゆれ
ゆるゆゆさまゆり
田上の十ゆ
ゆくゆゆ

利
玉

國貞画　川柳作

嘉永六癸丑歳新鐫藏版目録

坂東太郎後世譚　八編　西馬作　貞秀画

岸柳四麗談　三編同作　四編國輝画

勧善懲悪　糸合噺　七編　八編　柳下亭種員作　一陽齋豊國画

江戸鹿子紫草紙　二編　三編　文亭梅彦作　香蝶楼豊国画

今様八犬傳　六編　七編　八編　春水作　國芳画

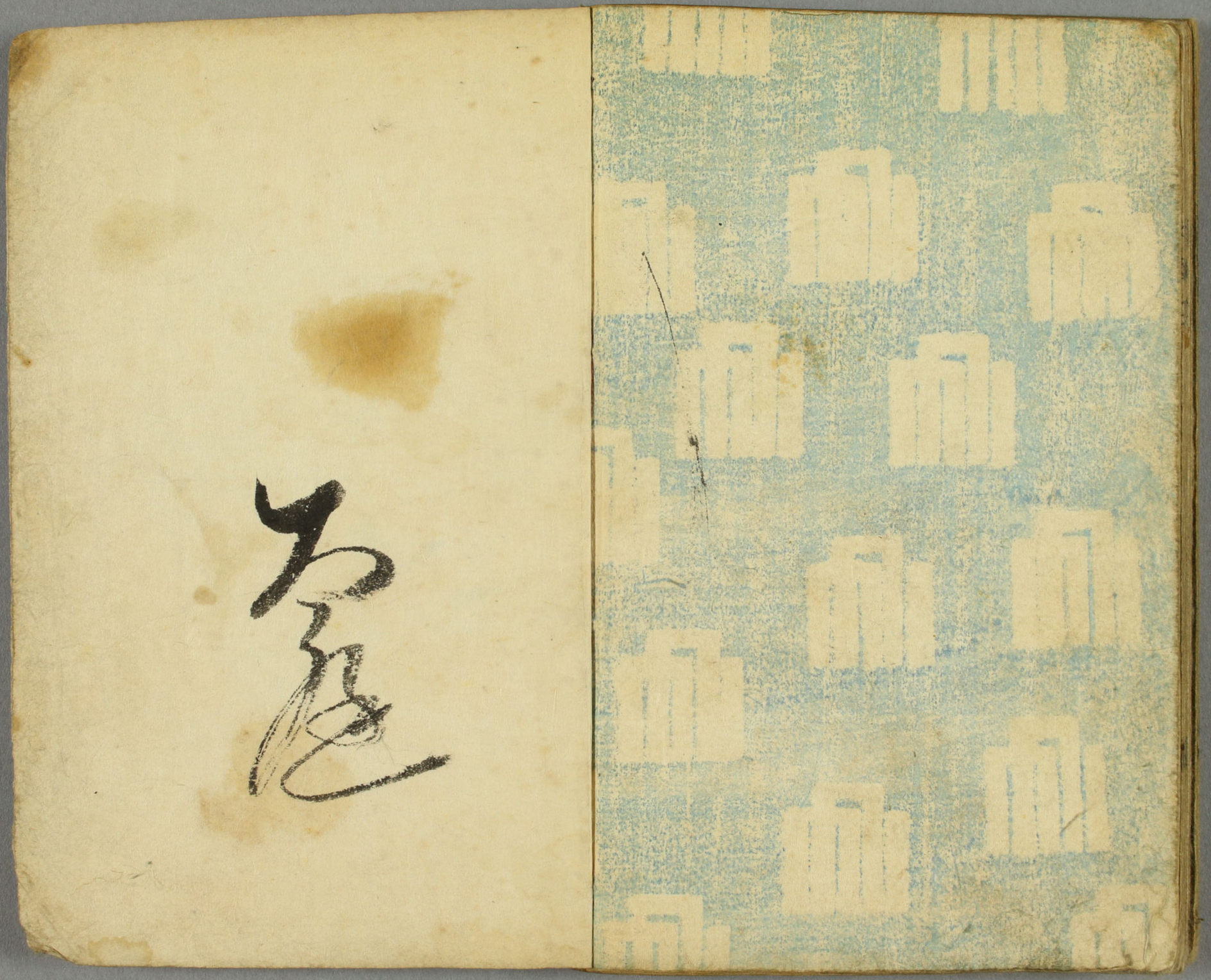
政談國盡　初編　二編　川柳作　國輝画

象頭山麦宮日記　一冊　國輝画　樂亭譯

東都馬喰町二丁目西側　書物地本問屋　山口屋藤兵衛　繪草紙

水滸俠銘鑑　三輯　四輯　五輯　樂亭西馬稿案　鈗持楼國輝画圖

似像



池

上